

文教・警察常任委員会資料  
平成31年(2019年)3月7日  
教育委員会事務局幼小中教育課

---

---

## 第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン ～「読み解く力」の育成を通して～

---

---

(案)

平成31年(2019年)3月 日

滋賀県教育委員会

<目 次>

○ はじめに	.....	1
1 本県の課題	.....	2
2 プランの重点事項	.....	2
3 取組の視点	.....	3
4 3つの視点からの取組の推進	.....	4
5 推進体制	.....	6
6 本プランの数値目標	.....	7

## ○ はじめに

県教育委員会では、子どもたちの学ぶ力の向上に向けた目標と施策の方向性を示す4年間の中長期計画として、平成27年3月に「学ぶ力向上 滋賀プラン」を策定しました。このプランにおいては、「学ぶ力」を豊かな人間性や人間関係を築く力、学ぶ意欲を支える自尊感情、主体的に学ぶ姿勢、学び方、学習規範、学びを支える体力、規則正しい生活など、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を支える力と位置付けています。そうした「学ぶ力」を育むことが重要であると考え、6つの視点として「一人ひとりの学ぶ力を高める」、「生活の中で学ぶ力をつける」、「繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出す」、「放課後や家での時間の使い方を考える」、「県全体で子どもの力を伸ばす」、「授業を改善する」を設定し取組を進めてきました。

4年間の取組により、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する子ども」や「自分には、よいところがあると思っている子ども」が増え、また、県内小中学校(義務教育学校前期・後期課程を含む、以下同じ。)では、「めあて・ねらい」を示したり、「話し合い活動」を取り入れたりする授業スタイルが普及しました。

しかしながら、全国学力・学習状況調査からは、基礎的・基本的な知識・技能の習得が不十分である児童生徒や、文章の趣旨を把握したり自分の考えを説明したりする力が十分に身に付いていない児童生徒が、全国と比べて多いことなどの課題が見られます。また、児童生徒質問紙調査の結果を全国と比べると、家庭等で主体的に学習する習慣を身に付けることや、仲間や周囲とのつながりを大切にすることなどにも課題が見られます。

このような状況や急速な社会情勢の変化などに対応するため、これまでの「学ぶ力向上 滋賀プラン」の理念を踏まえつつ、「読み解く力」の育成に重点をおいた「第Ⅱ期 学ぶ力向上 滋賀プラン」(以下「本プラン」という。)を策定し、県内の小中学校を中心として、「学ぶ力」を向上する取組を推進していくこととします。

なお、子どもたちの「学ぶ力」を向上するためには、校種を越えた一貫した取組が重要であり、幼稚園等、高等学校、特別支援学校においては、小中学校との連続性を念頭に本プランの内容を共有しながら、各校園の実情に応じて取組を進めることにします。

## < 計画期間 >

2019年度から2023年度までの5年間とします。

なお、2019年度から2021年度までの3年間は「前期」とし、2022年度および2023年度の2年間は「後期」とします。この際、「前期」の取組を検証・改善し、「後期」の取組につなげます。

## 1 本県の課題

これまでのプランの検証や全国学力・学習状況調査の結果の分析から、次のような課題が挙げられます。

- ・基礎的・基本的な知識・技能の習得や、文章の趣旨や問われていることを把握したり、表やグラフから必要な情報を取り出したりする力、自分の考えを適切な根拠をもとに説明する力を身に付けること。
- ・人が困っているときに進んで助けるなど、人の気持ちや考えを理解し、仲間や周囲とのつながりを大切にする事。
- ・各学校の子どもたちの学習等の状況や課題にあわせて、学校が一体となって「学ぶ力」向上の取組を進めること。
- ・子どもたちが家庭等で主体的に学習する習慣を身に付けること。

## 2 プランの重点事項

### ○ 目標

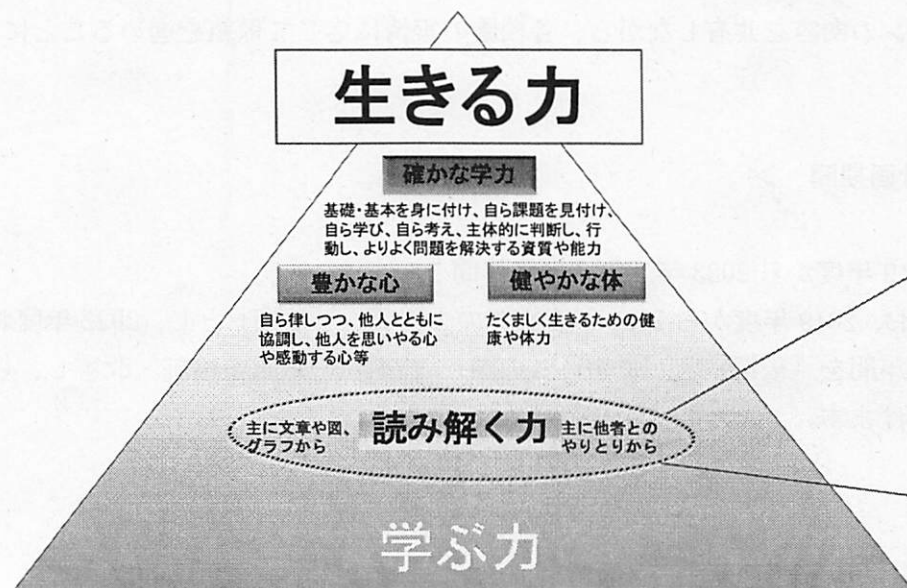
「読み解く力」の育成に重点をおいて取り組むことにより、子ども一人ひとりの「学ぶ力」を高める。

グローバル化や情報化が一層進展する等、社会が大きく変化するこれからの時代に、柔軟に対応できる力が必要です。

子どもたちの学ぶ力を高めるためには、一人ひとりの基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、文章や情報を正確に読み解き理解する力が大変重要となります。また、人との関係において相手の言葉やしぐさ、表情などから、相手の考えや思いを読み解き理解するなどの力もますます重要となっています。

こうしたことから、本プランでは、「読み解く力」の育成に重点をおいて取り組むことにより、本県の課題を解決し、子ども一人ひとりの「学ぶ力」を高めることを目指します。

このような取組は、子どもたちの「生きる力」の育成につながるものと考えています。



### 3 取組の視点

本プランの目標の達成に向けて、まずは、子どもたちの基本的な生活習慣の定着を図り、「読み解く力」の育成に重点をおいて、以下の3つの視点から「学ぶ力」を向上する取組を推進します。

#### (視点1) 学びを実感できる授業づくり

子ども一人ひとりの学力や学習の状況を把握し、その状況に応じて学習内容が定着するよう指導や支援を行うことにより、すべての子どもが「わかった」「できた」と実感できる授業づくりの取組を推進します。

#### (視点2) 学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり

子どもたちが、思いやりをもって関わり合い、互いに高め合える、学びに向かう集団づくりを通して、自分の考えや思い等を、安心して表現できる人間関係を築き、その中で豊かな人間性を育成します。

#### (視点3) 子どものために一丸となって取り組む学校づくり

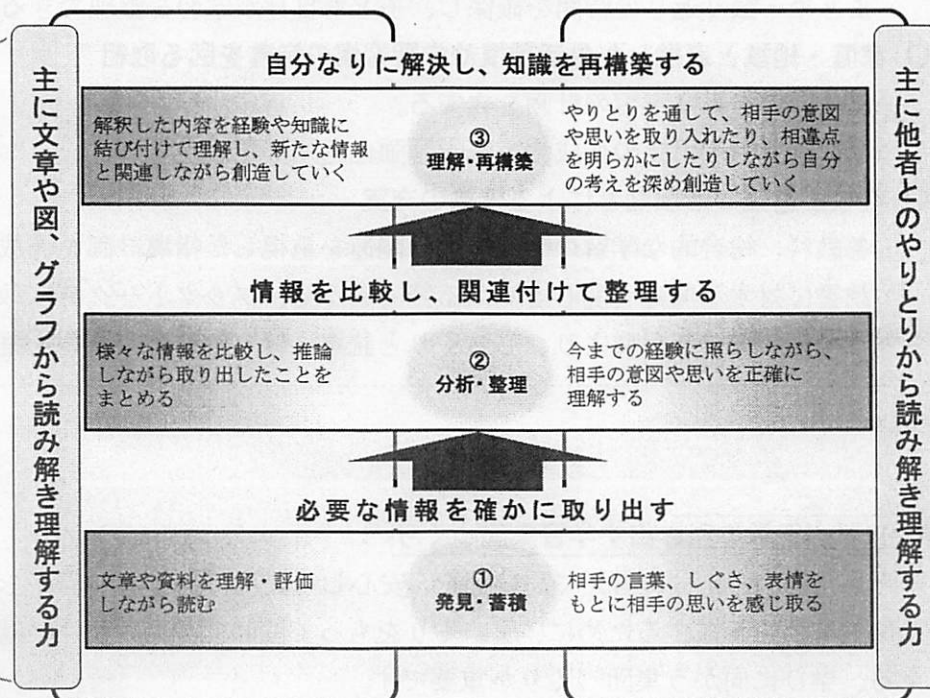
全ての教員が、各校における学ぶ力向上の具体的な取組を共有し、学校全体で組織的に実践する取組を推進します。

### ○ 「読み解く力」

「読み解く力」には、文章や情報を正確に読み解き理解する力と、相手の言葉や表情、しぐさから、相手の考えや意図を読み解き理解する力の2つの側面があるものと捉えています。そして、その両面から「必要な情報を確かに取り出す」、「情報を比較し、関連付けて（自分と結び付けて）整理する」、「自分なりに解決し、知識を再構築する」というプロセスを、どの発達段階においても意識して「読み解く力」を育成していくことが大切であると考えています。

子ども一人ひとりの「読み解く力」の育成に向けては、県教育委員会と市町教育委員会が連携して実践的な研究・研修を行うことにより、県全体に「読み解く力」の育成の取組を広げます。また、指導方法や教材等の研究と教員の指導力の向上のための研修を一体的に進めます。

#### 読み解く力のイメージ



#### 4 3つの視点からの取組の推進

本プランの目標の達成に向けて、まずは、子どもたちの基本的な生活習慣の定着を図り、「読み解く力」の育成に重点をおいて、以下の3つの視点から「学ぶ力」を向上する取組を推進します。

##### **（視点1）学びを実感できる授業づくり**

子どもたちが、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、その知識・技能を活用して課題を解決する力を身に付けるためには、子ども一人ひとりの学びの状況を的確に把握し、その状況に応じた指導の充実を図ることが大切です。

##### **<具体的な取組例>**

###### **○ 子ども一人ひとりの学びの状況に応じた指導の充実**

- ・評価問題を活用して、子ども一人ひとりの学びの状況を的確に把握する。
- ・子どもの習熟度に合わせた少人数による指導や複数教員による指導を行う。
- ・放課後等を利用した補充学習など一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行う。

###### **○ 基礎的・基本的な知識と技能の指導の徹底**

- ・放課後や長期休業等を活用して学習の補充・支援に取り組む。
- ・「ガッテンプリント」を活用し、つまずいた箇所を繰り返し学ぶ機会を設定する。

###### **○ 身に付けた知識・技能を活用して課題を解決する学習の充実**

- ・文章や情報、相手の考えや意図を読み解き理解する活動に取り組む。
- ・課題発見・解決のプロセスを意識した単元および授業を構想する。
- ・総合的な学習の時間を軸とした教科等横断的な学習の計画を作成し実践する。

###### **○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善**

- ・子どもの課題意識を高め、学習の見通しがもてる導入の工夫をする。
- ・自分の考えをもつ時間を確保し、目的を明確にした話し合い活動をする。
- ・まとめ・振り返りの時間を確保し、子ども自身が学習を整理できるようにする。

###### **○ 家庭・地域と連携した生活習慣や学習習慣の定着を図る取組**

- ・帰りの会で家庭学習の計画を立てる。
- ・家庭学習の手引きの作成や家庭学習強化週間等を設定する。

###### **○ 学校図書館の活用などによる読書の充実**

- ・各教科、総合的な学習の時間等との関連を重視した指導計画を作成する。
- ・読書に対する興味・関心を高める読み聞かせ、ブックトーク等に取り組む。
- ・学校図書館の活用により、じっくりと読書に親しむ習慣づくりを推進する。

##### **（視点2）学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり**

子どもたちが、自分の考えや思い等を、安心して表現できる人間関係を築き、その中で豊かな人間性を育成するために、思いやりをもって関わり合い、互いの違いを認め、高め合える、学びに向かう集団づくりが重要です。

### <具体的な取組例>

- 互いの違いを認め合い、自分の考えや思い等を安心して表現できる学級経営
  - ・ ソーシャルスキルトレーニング等を取り入れた指導を行う。
  - ・ 校内人権の日を設定し、学級ごとに取組を実施する。
- 子どもの自己決定の場をつくるなど生徒指導の機能を生かした活動の充実
  - ・ 日常の授業において、生徒指導の3つの機能を生かした授業づくりを推進する。
  - ・ 学期初めや終わりの全校集会を活用し、子どもが活躍する場を設定する。
- 基本的な生活習慣、学習規律の指導の徹底
  - ・ 学校内で生活のきまり、学習のきまりをそろえて、徹底した指導を行う。
  - ・ 中学校への接続を円滑にするため、同一中学校区の小学校できまりを共有する。
- 学級活動や児童会・生徒会活動等の児童生徒の自治的な活動の充実
  - ・ SNS利用時の約束事を作成する等、自治的な取組を充実させる。
  - ・ 異学年での縦割り活動やペア学年での取組を工夫する。
- 思いやりの心を育む道德教育の推進
  - ・ 価値観の違いを認め合うことができるよう、多様な指導方法の工夫を行う。
  - ・ 道德の公開授業を積極的に行い、家庭と連携して道德性を育む。
- 体験活動を通した豊かな人間性や人間関係を築く取組の充実
  - ・ 友達と協力して一つのことをやり遂げる体験活動を設定する。
  - ・ 「うみのこ」、「中学生チャレンジウィーク」等の体験を生かす事前事後活動を実施する。

### (視点3) 子どものために一丸となって取り組む学校づくり

各校の状況に応じた学ぶ力を向上する取組を、学校全体で組織的に実践するためには、管理職のリーダーシップのもと、全ての教員が、課題やビジョンを共有し、PDCAサイクルにより取組を着実に推進することが大切です。

### <具体的な取組例>

- 学校全体で組織的に実践する取組の推進
  - ・ 学校における取組の推進組織を明確にし、その組織により継続的に取組を推進する。
  - ・ OJTを取り入れながら、全ての教員の指導力向上を図る。
  - ・ 取組の重点を明らかにし、PDCAサイクルにより継続的に取組を改善する。
  - ・ 全国学力・学習状況調査等の結果を分析し、改善すべき課題に取り組む。
  - ・ 子どもに付けたい力を明確にし、校内研究を計画的に実践する。
  - ・ コミュニティ・スクール等を活用した取組を推進する。
- 中学校区を単位とした取組の推進
  - ・ 9年間で付けたい力を意識し、小中学校で系統的に実践に取り組む。
  - ・ 小中学校教員が互いに授業を参観し、目指す児童生徒像を具体的な姿で共有する。
  - ・ 小中学校教員が合同研修会で交流し、互いの指導力向上を図る。
  - ・ 小中学校教員のチーム・ティーチングを実施し、教科担任制への滑らかな接続を図る。

## 5 推進体制

### ○ 学校や市町教育委員会における統一感のある取組の推進

学校や地域の状況を考慮しながら、本プランの目標や取組の視点等を踏まえて、県内の全ての小中学校および市町教育委員会において実施計画（我が校の学ぶ力向上策・市町学ぶ力向上策）を作成することにより、県全体で統一感のある取組を推進します。

### ○ 学校園

#### <幼稚園等>

- ・ 基本的な生活習慣をはじめとする学びの基礎となる力を幼児教育で育みましょう。
- ・ 幼稚園等と小学校の教員の合同研修会を実施し、幼小連携の取組を推進しましょう。
- ・ 園内研修の充実を図るために近隣園等との合同研修会を実施しましょう。
- ・ 幼稚園等で取り組んでいる内容を、保護者、地域に積極的に発信しましょう。

#### <小中学校および義務教育学校>

- ・ 学校の状況を踏まえ、取組事項を決定して、具体的な実施計画を作成し、「学ぶ力」を向上する取組を推進しましょう。
- ・ 実施計画を校内で共有し、PDCAサイクルにより組織的に取り組みましょう。
- ・ 「全国学力・学習状況調査」や「学びの基礎チャレンジ」の結果分析を学校の取組に生かすとともに、校内の取組内容を、家庭・地域に積極的に発信しましょう。
- ・ 子どもたちが基本的な生活習慣や家庭等で主体的に学習する習慣を身に付けるため、家庭・地域との連携した取組を行いましょ。
- ・ 幼稚園、小学校、中学校の教員との合同研修会を実施し、幼小連携・小中連携の取組を推進しましょう。

### ○ 家庭・地域

- ・ 学校の「学ぶ力」向上の取組内容等について理解し、教育活動に協力しましょう。
- ・ 「早寝、早起き、朝ごはん」等の基本的な生活習慣および家庭における読書や学習の習慣が定着するように取り組みましょう。

### ○ 市町教育委員会

- ・ 本プランの内容や県教育委員会が毎年度示す教科の指導力点等を踏まえ、各地域の状況に合わせて、市町教育委員会の実施計画を作成し取組を推進しましょう。
- ・ 県教育委員会と連携し、「読み解く力」の実践的な研究・研修を行いましょ。
- ・ 学校訪問等を通じて、各校園の取組を計画的、継続的に支援しましょ。

### ○ 県教育委員会

- ・ 本プランの目標の達成状況を把握するため、毎年点検・評価を行います。
- ・ 「全国学力・学習状況調査」や「学びの基礎チャレンジ」の結果を分析し、児童生徒の指導に役立てます。
- ・ 「読み解く力」の育成に向け、指導方法や教材等の研究と教員の指導力の向上のための研修を一体的に進めます。
- ・ 学校訪問等を通じて、各校園の取組を計画的、継続的に支援します。
- ・ 優れた学校の取組を収集し、事例集などを作成し普及に努めます。
- ・ 本プランの取組について、県域で広報誌等により積極的に情報を発信します。



## 6 本プランの数値目標

本プランにおける取組の効果や進捗状況を把握するため、数値目標を設けました。プランの取組を全体的に把握するための目標、本プランで重点をおく「読み解く力」育成の取組、さらには、3つの視点ごとの取組について指標を設定し、その成果や課題を把握しながら、取組の見直し等を行い着実に推進していきます。

### (1) プラン全体の数値目標

#### ○「学びのアンケート(県独自の質問紙調査)」の児童生徒質問紙による質問項目

数値目標は、「学びのアンケート」の児童生徒質問紙の質問項目の「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した県平均の割合(%)とします。

指 標 項 目		数値目標 (%)	
		前期目標値 2021年	最終目標値 2023年
国語の授業の内容はよく分かりますか	小国	84.0	85.0
	小算	84.0	85.0
算数/数学の授業の内容はよく分かりますか	中国	73.0	75.0
	中数	73.0	75.0

(第3期教育振興基本計画成果指標)

#### ○ 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査(小学校 国語・算数、中学校 国語・数学)の県平均正答率(%)および県平均無解答率(%)

数値目標は、全国学力・学習状況調査 教科に関する調査(小学校 国語・算数、中学校 国語・数学)の『主として「知識」に関する問題』の県平均正答率(%)、『主として「活用」に関する問題』の県平均正答率(%)および県平均無解答率(%)とします。

指 標 項 目		現状 2018年	数値目標 (%)	
			前期目標値 2021年	最終目標値 2023年
全国学力・学習状況調査における『主として「知識」に関する問題』の目標値(県平均正答率) 【知識・技能】	小国	68.0	70.5	71.5
	小算	60.0	61.5	63.5
	中国	75.0	76.5	77.5
	中数	65.0	66.5	68.0
全国学力・学習状況調査における『主として「活用」に関する問題』の目標値(県平均正答率) 【思考力・判断力・表現力等】	小国	53.0	54.5	55.5
	小算	49.0	50.5	52.0
	中国	58.0	59.5	61.5
	中数	45.0	46.5	47.5
全国学力・学習状況調査における『主として「活用」に関する問題』の県平均無解答率 【学びに向かう力】	小	7.0	5.5	4.5
	中	11.2	9.5	8.0

2018年度全国学力・学習状況調査の本県の結果をもとに、県教育委員会として各教科および各校種の期待する正答率(%)、無解答率(%)を2023年度の数値目標に設定した。

なお、全国学力・学習状況調査は4月に実施されるため、調査の結果を、前年度の取組成果の指標としてとらえる。(例 2019年度の取組の成果は、2020年度全国学力・学習状況調査の結果の数値を成果指標とする。)

(2) 「読み解く力」の育成に関する数値目標

- 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査(小学校 国語・算数、中学校 国語・数学)の『主として「活用」に関する問題』の県平均正答率(%) (再掲)

指 標 項 目		現状 2018 年	数値目標 (%)	
			前期目標値 2021 年	最終目標値 2023 年
全国学力・学習状況調査における『主として「活用」に関する問題』の目標値 (県平均正答率) 【思考力・判断力・表現力等】	小国	53.0	54.5	55.5
	小算	49.0	50.5	52.0
	中国	58.0	59.5	61.5
	中数	45.0	46.5	47.5

- 「学びのアンケート(県独自の質問紙調査)」の児童生徒質問紙による質問項目

数値目標は、「学びのアンケート」の児童生徒質問紙の質問項目の「そう思う」「当てはまる」と回答した県平均の割合 (%) とします。

指 標 項 目		現状	数値目標 (%)	
			前期目標値 2021 年	最終目標値 2023 年
学校の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができる	小	33.4 *H30 調査	40.0	45.0
	中	28.3 *H30 調査	38.0	45.0
人が困っているときは、進んで助けていますか	小	35.3 *H29 調査	40.0	45.0
	中	30.0 *H29 調査	35.0	40.0
読書は好きだ	小	47.5 *H29 調査	49.0	50.0
	中	41.4 *H29 調査	44.0	46.0

過去の全国学力・学習状況調査の他自治体の質問紙調査の結果を参考に、2023 年度の数値目標を設定した。

### (3) 3つの視点に関する数値目標

数値目標は、「学びのアンケート（県独自の質問紙調査）」の児童生徒質問紙および学校質問紙の質問項目の「そう思う」「当てはまる」「よく行った」と回答した県平均の割合（％）とします。

表 3つの視点に関する数値目標一覧

	指標項目		現状	数値目標（％）		
			2018年	前期目標値 2021年	最終目標値 2023年	
視点1	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思いますか【児童生徒質問紙】	小	25.5	37	44	
		中	22.7	30	35	
	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか【児童生徒質問紙】	小	48.9 *H29調査	59	65	
		中	39.8 *H29調査	46	50	
	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか【児童生徒質問紙】	小	41.0 *H29調査	54	62	
		中	18.7 *H29調査	39	52	
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか【児童生徒質問紙】	小	43.2 *H29調査	56	65	
		中	24.7 *H29調査	37	45	
	家で、学校の授業の予習・復習をしていますか【児童生徒質問紙】	小	24.6	40	50	
		中	14.4	27	35	
	読書は好きだ【児童生徒質問紙】（再掲）	小	47.5 *H29調査	49	50	
		中	41.4 *H29調査	44	46	
	視点2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか【児童生徒質問紙】	小	37.5	50	58
			中	25.8	37	45
将来の夢や目標を持っていますか【児童生徒質問紙】		小	68.0	72	75	
		中	39.9	46	50	
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか【児童生徒質問紙】（再掲）		小	33.4	40	45	
		中	28.3	38	45	
人が困っているときは、進んで助けていますか【児童生徒質問紙】（再掲）		小	35.3 *H29調査	40	45	
		中	30 *H29調査	35	40	
学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか【学校質問紙】	小	53.8	64	70		
	中	58.5	65	70		
視点3	児童/生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか【学校質問紙】	小	17.5	37	50	
		中	18.6	37	50	
	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか【学校質問紙】	小	39.0	49	55	
		中	25.5	40	50	
	近隣等の小/中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか【学校質問紙】	小	12.6	29	40	
		中	14.7	30	40	
	家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語/算数・数学共通）【学校質問紙】	小	36.8	51	60	
		中	17.6	37	50	
大方の教職員は、各教科等の教育目標や内容の相互関連を意識して、日々の授業を行っている。【学校質問紙】 ※全国学力・学習状況調査には無い質問項目	小		30	50		
	中		24	40		

※ 2018年の数値は、平成30年度全国学力・学習状況調査 質問紙調査のもの。

過去の全国学力・学習状況調査の他自治体の質問紙調査の結果を参考に、2023年度の数値目標を設定した。